

一般財団法人 Ruby アソシエーション  
2012 年度 第 2 回臨時評議員会 議事録

- 1 日 時：2013 年 3 月 6 日（水）14:00 ～15:30
- 2 場 所：インターネットイニシアティブ会議室  
（東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング 17F）

3 出席者：

1) 評議員

出田健二評議員 (株)まちづくり三鷹 マネージャー  
及川喜之評議員 (株)セールスフォース・ドットコム CTO  
大場寧子評議員 (株)万葉 代表取締役社長  
後藤裕蔵評議員 (株)ネットワーク応用通信研究所 取締役

正村勉評議員 (株)日立ソリューションズ 技術開発本部 本部長 兼 Ruby センタ センタ長  
立久井正和評議員 (株)インターネットイニシアティブ  
サービス本部 プラットフォームサービス部長

中島宏評議員 (株)DTS IT プラットフォーム部 部長

平松知江子評議員 (株)富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ  
生産革新技術センター長代理 兼 OSS ビジネス推進部長

森正弥評議員 (株)楽天 執行役員 兼 楽天技術研究所 所長 ※Skype 参加

吉岡宏評議員 (株)テクノプロジェクト 代表取締役社長

吉田正敏評議員 富士通(株) プラットフォーム技術本部 チーフストラテジスト

※欠席：最首英裕評議員 (株)グルーヴノーツ 代表取締役社長

羽田昭裕評議員 日本ユニシス(株) 総合技術研究所 所長

2) 理事

松本行弘理事長、井上浩副理事長、笹田耕一理事、澤田盛繁理事、田中和明理事、  
橋本明彦理事

3) その他、事務局

前田修吾事務局長、横田早百合事務局員、杉原健司支援スタッフ（島根県）、  
福田一斎支援スタッフ（松江市）

4) オブザーバ

田代秀一氏（(独) 情報処理推進機構）、高橋征義氏（(一社) Ruby の会）、  
角谷信太郎氏（(一社) Ruby の会）、松本新吾氏（島根県）、藤原亮彦氏（松江市）

4 議長の選任

- ・事務局より出席の評議員から選出することを説明。
- ・評議員から事務局一任との意見があり、事務局より吉岡評議員を推薦。
- ・出席評議員からは異議なく、吉岡評議員も承諾された為、吉岡評議員を議長に選任。

5 松本理事長あいさつ

- ・この一年は、Ruby にとって大きな 1 年だった。言語仕様が国際規格に承認され、軽量 Ruby も公開。先日は Ruby の 20 周年とともに、新しいバージョンの Ruby2.0 をリリースした。
- ・しかし、Ruby2.0 は軽量 Ruby の仕様も国際規格に反映できていない。
- ・また、環境や周囲の変化にテクノロジーが適応できていないなど、課題もある。
- ・こうした課題は、Ruby アソシエーションがサポートしていくところ。
- ・引き続き評議員、理事の皆さんにはご協力をお願いしたい。

## 6 新評議員、理事の挨拶

この度新たに評議員に就任した出田氏、また、昨年秋に理事に就任し、評議員会に初めて出席した笹田氏、澤田氏、田中氏、橋本氏がそれぞれ挨拶。

## 7 議題

### 1) 2013年度 事業計画書(案)について

- ・井上副理事長が今年度との主な変更点である RubyPrize と標準維持事業の概要について、前田事務局長が別添資料 No1 にて説明。

(質疑応答)

- ・吉田評議員：Ruby の普及には事例の紹介が重要。ユーザ企業は事例集がないと社内で Ruby 採用に向けて説得できない。以前、IPA では Linux の普及のために、短期間で何百もの事例を集め公開した。その点、財団の取組みはスピード感がないように思う。来期の予算で剰余金が見込まれるのであれば、もう少し方策があるように思う。
- ・前田事務局長：人的コストの問題がある。現在は専門のライター1人と契約をしている。剰余金も財団法人では基本財産は保持しなければならず、現状では活動資金は協賛金に頼っている。また、公表する事例内容も質を重視しており、その為には相応のコストが必要となる。
- ・杉原支援スタッフ：今後、税源の許す範囲で契約するライターを増やすことも検討課題だと思ふ。また、公開する事例内容を例えば概要だけ紹介するようにクオリティを下げることとも検討課題かと思ふ。
- ・吉田評議員：どの企業が Ruby を利用しているのか、だけで良いのでは是非検討して欲しい。
- ・及川評議員：RubyPrize は、公益法人化を考えている中で、「イコール松江市」のイメージが強すぎる気がする。
- ・井上副理事長：理事会内部でも議論があったところ。RubyPrize は、松江市のアイデアによるもの。
- ・藤原氏：昨年 RubyWorld Conference での市長の発言から検討が始まった。市長の思いは、Ruby でハッピーになるご支援、お手伝いをしていきたい。また、提案段階であり、評議員会でも是非アドバイスを頂きたい。
- ・前田事務局長：まずは理事会で検討し、あらためて評議員のご意見も伺いたい。
- ・平松評議員：公益認定の見通しは。
- ・杉原支援スタッフ：先日、内閣府担当と直接お会いしたが感触はよい。来期上期には認定されるように事務局でしっかり取り組みたい。

### 2) 2013年度 予算(案)について

- ・横田事務局長が今年度の決算見込みについて、杉原支援スタッフが来年度予算案について別添資料 No2 にて説明。

(質疑応答)

- ・吉田評議員：説明のあった来期の協賛会員数は確定か。また、今年度の協賛会員は来期も全て継続か。
- ・杉原支援スタッフ：来期の協賛会員数は見込数字である。しかし、予算額に近い額を確保できる見込みである。また、今年度の協賛会員には来年度の継続をお願いしているが、ごく僅かであるが、応じて頂けなかったケースもある。協賛金に見合ったメリットが無かったとのご意見を頂いている。
- ・松本氏：RubyWorld Conference でのノベルティ収入の内訳はなにか。
- ・福田支援スタッフ：資料を入れるバック、ストラップ、また、Ruby バッジ。T シャツの収

入は別に計上しているが、財団は作成代行であり、Tシャツの収入と同額の支出も計上している。

### 3) その他、意見交換

- ・ 出田評議員：(中高生国際 Ruby プログラミングコンテスト 2012 年について報告。また、今年も継続開催されることについても併せて報告)
- ・ 高橋氏：Ruby とは何か、を説明した資料は案外にない。財団で「Ruby とは」のパンフレットを作成してどうか。
- ・ 前田事務局長：パンフレットの内容が難しい。コンテンツについて Ruby の会に相談させてもらえると助かる。今後、検討したい。
- ・ 森評議員：感想として、財団の活動が手広くなってきた。

以上をもつて協議を終了したので、議長閉会を宣し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人は記名押印する。

2013年 3月 6日

議長

吉岡 宏



議事録署名人

及川 喜之



議事録署名人

中島 宏



本議事録の作成にかかわる職務を行つたものの氏名  
一般財団法人 Ruby アソシエーション 副理事長 井上 浩

一般財団法人 Ruby アソシエーション  
「2013 年度 事業計画書」 (案)

2013 年 4 月 1 日から

2014 年 3 月 31 日まで

2013 年 3 月 日

一般財団法人 Ruby アソシエーション

# 目次

はじめに	2
<b>1 組織体制</b>	<b>2</b>
1) 評議員	
2) 理事	
3) スタッフ	
<b>2 実施事業</b>	
1) Ruby 及びその周辺技術の開発支援事業	2
2) 情報発信事業	3
3) Ruby 技術者認定試験事業	3
4) 事業者認定事業	4
5) 標準維持事業	4
6) 協賛会員事業	4
7) 寄付事業	5
<b>3 関係機関との連携</b>	<b>5</b>
1) 松江市、島根県及び中国経済産業局	
2) 日本 OSS 推進フォーラム	
3) その他、関係機関	
<b>4 公益認定申請</b>	<b>5</b>
<b>5 その他関係資料</b>	<b>5</b>

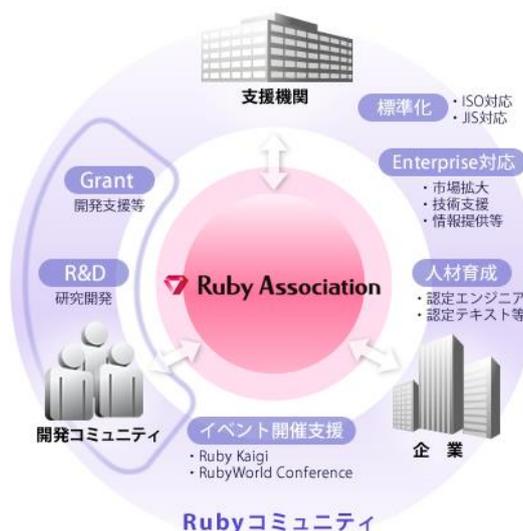
## はじめに

2012年度は、プログラミング言語 Ruby の言語仕様が国際規格（ISO/IEC 30170）に承認され、また、軽量 Ruby の開発成果が公表されるなど、Ruby への信頼性の高まりと利用範囲の更なる拡大に向けて節目となる年でした。

こうした中、一般財団法人 Ruby アソシエーション（以下、「当財団」という。）は、Ruby の普及、発展と、ビジネス利用の拡大を目的として、2012年度は、協賛会員などの支援のもと、公募型開発支援プロジェクト、安定版の保守事業、情報発信事業、技術者認定試験事業、並びに事業者認定事業に取り組んで参りました。

今年2月には最新版となる Ruby2.0.0 がリリースされ、また、当財団を支援する協賛会員も順調に増えるなど、持続可能な産業循環である「Ruby Eco System」が確実に広がっています。この「Ruby Eco System」をより強固なものにするために、当財団は、Ruby に関する開発コミュニティ、企業及び支援機関の良好な関係を築き、Ruby を利用される多くの皆様の発展に寄与できるよう、2013年度も様々な事業に取り組めます。

## Ruby Eco System



### 1 組織体制

#### 1) 評議員

引き続き評議員 13名の体制で、法律、定款の定めに従って財団運営に携わります。

#### 2) 理事

引き続き理事 6名の体制で、法律、定款の定めに従って財団運営に携わります。

#### 3) スタッフ

当面は常勤スタッフ 1名の体制を継続しますが、今期は更に人的体制の強化を図ります。その他、必要に応じて非常勤スタッフを活用するとともに、評議員輩出企業及び松江市、島根県による人的支援によって運営します。

### 2 実施事業

#### 1) Ruby 及びその周辺技術の開発支援事業

##### (1) 公募型開発プロジェクト

Ruby 及び周辺環境の改善を目的に Ruby 処理系、ライブラリ及びフレームワークに関連する開発プロジェクト（既存のソフトウェアを改良するプロジェクトを含む）に対し、助成金を交付します。

## (2) Ruby 安定版保守事業

Ruby を安心して利用できる環境の提供と、開発コミュニティが Ruby の新たな機能開発に集中できる環境づくりを目的に、Ruby1.9.3 の保守、並びに Ruby2.0.0 の脆弱性に関する保守を実施します。

## 2) 情報発信事業

### (1) Web 活用

#### ①利用事例の紹介

これまで知られていなかった Ruby 利用事例を発掘し、充実した事例紹介の提供に努めます。この事例紹介では、日本 OSS 推進フォーラムなど関係機関と連携し、取り組みます。

また、協賛企業の事例は PDF 化、及びダウンロードを可能にすることで協賛企業の広報に役立てます。

#### ②技術情報の紹介

現在提供する「Ruby の導入から開発・運用に至るまでに必要とされる一連の情報」の精度向上と、関係技術のバージョンアップなどにも対応し続けることでの提供情報の充実に努めます。

また、現在掲載の技術情報に関して、広く意見を募ることを検討します。

## (2) RubyWorld Conference 2013

2013 年 11 月 21 日（木）、22 日（金）に島根県松江市にて開催し、当財団を中心に松江市、島根県、島根大学などで構成する RubyWorld Conference 開催実行委員会によって準備、運営をします。従来同様に「Ruby Eco System（Ruby の持続可能な生態系）」をテーマに、国内外から講演者を招聘、及び発表者を一般公募し、Ruby の先進的な利用事例、最新の技術動向などの様々な情報を発信します。

## (3) Ruby Prize

その年、プログラミング言語 Ruby の普及・発展に最も寄与した人物、活動、プロダクト等を選定・顕彰することで、Ruby の一層の裾野拡大を図ります。

- ・実行委員会形式：当財団、松江市
- ・表彰は RubyWorld Conference の場で行う。
- ・「応募型」ではなく「顕彰型」を想定。

## (4) ビジネスセミナー

RubyWorld Conference と同様に、Ruby ビジネスの中心地である東京、名古屋、大阪、島根、広島、福岡などで価値ある情報を提供するビジネスセミナーを開催します。2013 年度も 5 回程度の開催を予定します。

なお、当財団による単独開催のほか、支援企業及び関係機関と連携して開催する場合があります。

## 3) Ruby 技術者認定試験事業

Ruby ベースのシステムを設計、開発、運用するエンジニア、Ruby でシステム提案を行うコンサルタント、Ruby を教える講師などを対象とした認定試験を継続して実施します。試験の合格者は、Ruby 技術者としての技術力を公正に評価され、高い水準の Ruby によるシステム開発能力を有する「Ruby Association Certified Ruby

Programmer Gold」、又は「同 Silver」として認定します。

#### 4) 事業者認定事業

各プログラムにて認定された事業者、教育機関は、質の高い Ruby に関連したサービスを提供する者として当財団のホームページなどを通じて紹介します。

##### (1) Ruby アソシエーション認定システムインテグレータプログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 5 名以上所属する事業者を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified System Integrator Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

##### (2) Ruby アソシエーション認定教育機関プログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 2 名以上所属し、教材として「Ruby 公式資格教科書 Ruby 技術者認定試験 Silver/Gold 対応」を採用するか、同程度の内容を含むカリキュラムで、年間 2 回以上講習会などの教育を実施する教育機関を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified Educational Institution Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

##### (3) Ruby アソシエーション認定サポート事業者プログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 2 名以上所属し、Ruby のサポートサービスを提供する事業者を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified Support Provider Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

##### (4) Ruby アソシエーション認定クラウドサービス事業者プログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 2 名以上所属し、ユーザが登録したアプリケーションを ISO/IEC 30170 に適合する処理系上で動作させることができるサービスを提供している事業者を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified Cloud Service Provider Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

#### 5) 標準維持事業

Ruby の言語仕様は、昨年、国際規格 (ISO/IEC 30170) に承認されました。当財団では、この規格内容をより多くの方に知ってもらうための活動と、ISO のメンテナンス作業を行います。

#### 6) 協賛会員事業

当財団では、Ruby の普及、発展を目指す事業に賛同し、支援いただける会員を募集することで財政基盤の安定化を図ります。募集対象は、法人、任意団体及び個人であり、支援いただく口数に応じて 3 区分を設けています (年会費：1 口 10 万円、4 月を開始月とします)。

協賛会員区分

- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| (1) Platinum Sponsor | 5 口以上 (50 万円以上) |
| (2) Gold Sponsor     | 2 口以上 (20 万円以上) |
| (3) Silver Sponsor   | 1 口以上 (10 万円以上) |

2013 年度は、Platinum Sponsor として 10 社、Gold Sponsor として 21 社、また、

Silver Sponsor として 38 社のご賛同を見込んでいます。

当財団では、ホームページ、メーリングリスト、またビジネスセミナー等を通じて活動趣旨に賛同いただけるよう呼びかけます。

## 7) 寄付事業

上述の協賛会員事業のほか、当財団の事業に賛同、支援いただける方に向けて寄付を募集いたします。当財団では、ホームページ、メーリングリスト、またビジネスセミナー等を通じて活動趣旨に賛同いただけるよう呼びかけます。

## 3 関係機関との連携

当財団は、その目的の達成に向けて関係機関との連携を促進します。

### 1) 松江市、島根県及び中国経済産業局

当財団は活動の拠点（主たる事務所）を島根県松江市に置いています。これまでも当財団の活動に賛同、支援いただいた松江市、島根県及び中国経済産業局とは、一層連携を緊密にします。情報発信事業をはじめとした諸事業のみならず当財団の運営面においても支援いただくことで、充実した財団事業に取り組みます。

### 2) 日本 OSS 推進フォーラム

これまで同様に 2013 年度も同フォーラムの情報発信事業（特に利用事例の公開）と連携した取り組みを進めます。

### 3) その他、関係機関

Ruby への取り組みを進める機関との連携を進めることは、当財団の目的の実現に向けて重要な課題です。特に以下の機関との連携、共同事業を検討します。

- ①一般社団法人 日本 Ruby の会
- ②福岡 Ruby・コンテンツビジネス振興会議
- ③NPO 法人 軽量 Ruby フォーラム
- ④その他、国内外の機関

## 4 公益認定申請

当財団は Ruby の普及、発展等を目指し公益性の高い事業に取り組みます。こうした中で、(1) 公益団体であることを対外的に明示する、(2) 税制上の優遇措置を得る、ことを目的に公益財団法人の認可に向けた申請手続きに取り組みます。

昨年度、内閣府に公益認定を申請しており、今年度中の認定を目指します。

## 5 その他関係資料

別添に、2013 年度予算を掲載します。

## 2013年度 一般財団法人Rubyアソシエーション 予算案 2013.3.6 単位:千円

	2012年度 決算見込①	2013年度 予算②	②-①
<b>1 売上高</b>			
1)Ruby技術者認定試験	4,832	8,172	3,340
2)事業者認定事業	2,240	2,250	10
3)その他事業収入	3,002	2,860	-142
小計	10,074	13,282	3,208
<b>2 特別利益(協賛金、寄附金)</b>			
1)協賛会員	10,664	13,000	2,336
2)寄附金	210	210	0
3)その他	0	0	0
小計	10,874	13,210	2,336
<b>3 雑収入</b>			
1)預金利息 等	2	2	0
<b>4 売上原価</b>			
1)Ruby技術者認定試験	73	175	102
2)事業者認定事業	576	540	-36
3)その他	0	0	0
小計	649	715	66
<b>5 その他、事業費用</b>			
1)公募型開発プロジェクト	1,250	1,500	250
2)Ruby安定版の保守業務委託	1,638	3,400	1,762
3)Web活用(情報発信事業)	296	725	429
4)RubyWorld Conference開催	1,621	2,300	679
5)ビジネスセミナー開催 等	2,481	2,660	179
6)標準化維持	0	1,000	1,000
小計	7,286	10,585	3,299
<b>6 役員報酬</b>			
監事報酬	1,200	1,200	0
小計	1,200	1,200	0
<b>7 販売費及び一般管理費</b>			
1)職人員件費	3,744	7,000	3,256
2)賃借料(事務所+駐車場)	379	760	381
3)旅費交通費(出張費)	1,301	1,500	199
4)通信運搬費(電話代、郵便代)	41	50	9
5)消耗品費(事務用品他)	297	300	3
6)会議費	13	20	7
7)使用料	0	0	0
8)租税公課(固定資産税、印紙代)	82	100	18
9)手数料	147	150	3
10)委託費	399	800	401
11)報償費	0	0	0
※諸会費			0
※雑費		1,000	1,000
小計	6,403	11,680	5,277
<b>8 総収入</b>	20,950	26,494	5,544
<b>9 総支出</b>	15,538	24,180	8,642
<b>10 税引前当期純利益</b>	5,412	2,314	-3,098
<b>11 法人税、住民税及び事業税</b>	0	0	0
<b>12 当期純利益</b>	5,412	2,314	-3,098
<b>13 利益剰余金</b>	8,618	10,932	2,314
<b>※協賛会員数</b>			
Platinum Sponsor (50万円)	9	10	1
Gold Sponsor (20万円)	17	21	4
Silver Sponsor (10万円)	30	38	8